



自治財政局財務調査課助成係長

持丸 和也

MOCHIMARU KAZUYA

平成 22年 4月 総務省採用

消防庁消防・救急課

平成 23年 4月 同 自治税務局市町村税課

平成 24年 4月 岩手県政策地域都市町村課

平成 26年 4月 総務省自治財政局財政課

平成 28年 4月 同 大臣官房会計課収支第二係長

平成 31年 4月 現 職

過疎地域の笑顔を守る→日本の・・

過疎地域を考えることは日本の将来を考えること

私は、過疎地域に対する財政支援措置の運用・制度設計を担当しています。

過疎地域は特に人口減少や少子高齢化が著しい地域であるため、担い手不足、交通・医療の確保等様々な課題に直面しています。このため、過疎地域には、いわゆる過疎法により各種の支援策が取られていますが、この過疎法は今年度末に期限切れとなることから、現在、過疎対策のあり方を含め、各政党や政府において議論が活発に行われています。

日々、様々な要望・意見に触れていますが、国の過疎対策に対する過疎地域の期待は大きいものです。そういった要望等に対して情報を整理して制度改正等を検討することは簡単なことではありませんが、同時にやりがいを感じることもあります。

日本全体が人口減少する中、特に人口減少が著しい過疎地域は、日本全体が将来直面するであろう課題が先行して出てきている地域でもあります。過疎地域の課題に対して対策を考えることは、日本全体の将来の課題に対する対策を考えることでもあります。

職員が働く職場は職員が変わる

印象深い仕事として、会計業務の業務改革があります。係長として初めて行った仕事でもありました。主に行ったことは、東京・千葉で7つあった給与等の支払機関を1つに統合したことと旅費支給事務の簡素化です。

特に支払機関の統合は、各機関での支払内容毎のフローの確認、統合に伴う問題点、内部規定の整理等の課題を整理し検討する必要がありましたが、一つ一つ関係者と打ち合わせを重ね統合するに至りました。これにより、支障無く、各支払機関毎の支払作業や会計検査院に提出する証拠書類の作成作業等を無くすることが出来ました。

働き方改革がどの業界でも重要視されていますが、その為には職員の意識改革や上記のように一つずつ業務自体を見直すことが重要だと考えます。

総務省では働き方改革推進室が設置され、職員自らが職場を変える仕組みがあります。また、現在働いている自治財政局ではオフィス改革にも取り組んでいます。

主役は職員です。是非一緒に職員自身が働き易く、良い結果を出せる職場にしていきたいと思います。

Q 総務省を志望した理由は何ですか？

A 官庁訪問で職員の方々の熱心な話や人柄に魅力を感じたためです。

その中でも国と地方団体の両方で働けること、地方団体での勤務経験を国で制度に反映できるという話が、市役所を志望していながらも国家公務員にも興味があった私には魅力に感じました。

明確に国家公務員か地方公務員かを決めていない人は、決める前に、是非一度話を聞きに来てください。

Q 入省後、成長したと思うことは何ですか？

A 幅広い知識の取得や日々変わる状況に応じた対応力を伸ばすことが出来た職場だと思いますが、一番は人との関わりを大事に出来るようになったことが人間として成長出来たことだと思います。

様々な業務を経験しましたが、一人で出来た仕事はむしろ少なく、仕事は多くの人の関わりにより結果が出るものがほとんどです。また、仕事で知り合った人から話を聞いて自分の仕事の仕方を見直すきっかけになることもあります。仕事にも、仕事を通して自分を成長させる為にも人との関わりが大切だと思います。

Private Time

「むーむー！」とニコニコしながら上に乗って来る息子(8か月)に朝早く起こされるのも束の間、朝ごはんを食べていると「もう準備出来たよー！」と朝から公園に行きたくてさっさと準備を終えて玄関で靴まで履いている娘の声が聞こえてきます。(平日はもたもたしているのに。。)全然休ませて貰えません(笑)。土日の家族との時間があるから平日頑張れます。

